

オフィスビル 緊急事態の準備及び対応手順書	P45	承認	作成
	第 3 版		
	制定 04/11/16		
	改訂 05/04/06 総務部長		

1. 目的

オフィスビルで起こりうる緊急事態として、火災の発生を想定し、火災を予防する体制をとり、また火災発生時の対応を定めておくことで、会社・社員・環境が被る被害を最小限にする事を目的とする。

2. 考えられる火災原因

- 1) 流しのガスコンロ及び瞬間湯沸かし器の異常
- 2) タバコ火
- 3) 電気機器及び配線のショート・漏電
- 4) 窓際で集光が発生することによる発火（窓際に可燃物が置かれていた場合など）
- 5) 放火
- 6) 地震

3. 火災予防策

- 1) ガス器具を使用しているときは、担当者はその場を離れないのが理想であるが、現実的ではない。しかし、立ち消え防止装置も付いていないコンロなので、現実的にも火災原因として立ち消え発生の可能性がもっとも高い。ガスコンロ又は瞬間湯沸かし器を点灯した者は、3分を超えない毎に、ガス器具の状態を確認し、使用後はガスの元栓を閉めることとする。
- 2) 全フロアの室内を禁煙とする。喫煙は、室内以外の階段踊り場等の喫煙スペースで、周囲の火気に注意の上行う。また、吸い殻は火災予防上、また美観上確実に処置する。
加えて吸い殻の処置については、当社社員は社外でも社内同様確実に処置を行う。
- 3) 配線の老朽化が疑われる場合は、可能なら配線を交換する。また、普段より配線が踏まれないようにする、鋭角に曲げない等老朽化が進まないように配慮する。
延長コードに関しては、建物の構造から使用は避けられないが、コードの定格電流を超えないように使用する。また、特定のコードに使用電力が偏らないように配線する。
また差込不良について、差し込むときに関しては余程の不注意がない限りは発生しないが、床の配線などで、人の通行により抜けかかるケースが考えられる。これを念頭に置いて、コンセントを差込む時には、コンセントが抜けないように必要な処置を施しておく。
- 4) 窓際には、金魚鉢等のレンズ状物体を置かない。どうしても必要があって置く場合には、窓側を遮光する。
- 5) 地震により火災が発生する可能性があるような状況では、直ちに避難する必要がある。ガスの元栓を閉めて避難する。

4 . 火災発生時対応手順

責任	手順	関連文書
発見者	「火事だ！」と叫んで、ドアの外の消火器を取りに行き、初期消火をする。	
火元フロア	非常ベルを鳴動するとともに、電話の放送システムで、出火場所・火災の状況を伝える。	
火元フロア	119番通報して、火災であること、こちらの所在地(住所、御影大橋の袂の安全研ビル)、火元フロア・火元、消火器1本で消し止められない程度の火災であること、通報者の名前を伝える。	
各フロア	非常ベルが聞こえたなら、1人がその階の消火器を持って火元に駆けつける。	消火器による消火要領(6-1参照)
各フロア	消化班が地下の消化栓を用いて消火する。他の者は、整然と非常時持ち出し品を携行して退避を始める。但し、この段階では消火活動を優先して、消火活動の妨げにならない様に避難する。	消火栓による消火要領(6-2参照)
火元フロア	消火器及び消化栓で消火できなかった場合は自力消火を断念し、その旨を電話の放送システムで伝える。 この時点で、避難を最優先事項とする。	
各フロア 避難責任者	責任階に残留者のないことを確認してから退避する。 尚、各避難責任者は自力消火の断念を決定するまで、建物外へ退避しない。	
全員	通常、退避場所は御影大橋袂の犀川河川敷とする。	
各フロア 避難責任者	集合したところで、人員を点呼し、逃げ遅れた者がいないことを確認する。	
発見者	消防隊が到着したなら、発見時・退避時の火災の状況、要救助者の有無を消防隊に伝える。	

5 . 防火訓練

総務部は1年に1回の頻度で防火及び避難訓練を計画し、 を避難場所と定め模擬避難する。

但し訓練であるので、電話番と留守番を兼ねて各フロア1人ずつを残留役として訓練に参加しない。また、重要書類である非常時持ち出し品は実際には持ち出さず、書籍などで代用する。

更に、監視役を1人置いて、避難所要時間を計時し、避難手順の問題点の発見にあたる。監視役は、避難終了後に講評と避難所要時間を発表する。

模擬誘導終了後、消火器及び消火栓の使用方法をパンフレット(6項)により説明する。

消火及び避難手順に問題がある場合は、手順書を改訂する。

6. 消化要領

(1) 消火器による消火要領

1

消火訓練

小規模ビル避難等訓練マニュアル

●初期消火の目的=火災を早期発見し、被害を最小限にとどめること

1 火災発生

↓

2 初期消火判断

↓

3 消火器の準備

↓

4 消火活動



電話が長引いているうちに、油鍋に火が入りました！



天井まで火は届いていません。まだ消すことができます。

「火事だ！火事だ！」と叫びながら、周囲に火災を知らせます。

慌てずに消火器を準備します

1



連射する時

2



ピンを抜き

4



にぎる

3



ノズルを火元に向ける

火元に向けて消火剤を放出します。火が消えたら、ガスの元栓を閉めます。

※ 消火後、天ぷら鍋の温度が完全に下がったことを確認してください。

●よくある失敗例（油鍋に水）



油鍋に向かって水をかけると、炎が飛び散ってしまい大変危険です。

(2)

1
小規模ビル避難等訓練マニュアル
消火訓練

●屋内消火栓の操作訓練

屋内消火栓には2つのタイプがあり、それぞれ操作要領が違います。

1 1号消火栓

1号消火栓は、ホースが折りたたまれて消火栓ボックスに収納されているため、ホースを延長した後でないと水をホース内に流すことができません。このため、ホースを火元付近まで延長し放水する人と消火栓のバルブを開放する人の、最低でも2人の操作員が必要となります。

①消火栓ポンプ起動



発信機のボタンを押し、消火栓ポンプを起動します。

発信機のボタンを押すタイプとボックス内に専用の起動ボタンがあるものがあるので注意

②ホース延長



ホースにねじれがないように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。

③バルブ開放・放水



出火箇所に接近した操作員の放水準備がきたら「放水はじめ!」の合図で、消火栓のバルブを開放し放水します。



注意



ホースを延長する前にバルブを開けると、水で充満したホースがボックス内に拵がって取り出せなくなる事があります。必ず操作手順を守ってください。

2 2号消火栓・易操作性1号消火栓

2号消火栓・易操作性1号消火栓は、ホースがドラムに収納されているため、収納状態でもホース内に水を流すことができます。このため、一人で操作することができます。

①バルブ開放

バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。



②ホース延長

ホースを持ちながら、出火箇所に向かいます。



③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。





注意

1. 訓練中は安全を管理する担当者を設けましょう。
2. ホースを延長するとき障害となる物がないか確認しましょう。
3. 放水する時はノズルから絶対に手をはなさないようにしましょう。
4. 火災の時、いきなりドアを開けると空気（酸素）が流れ込み一気に火勢が強まる場合がありますので、まずドアを少し開いて、様子を見てからドアを開けましょう。

- 5 / 5 -